

二〇〇七年は中堅・中小企業も経済のグローバル化の荒波をまともにかぶった年だった。

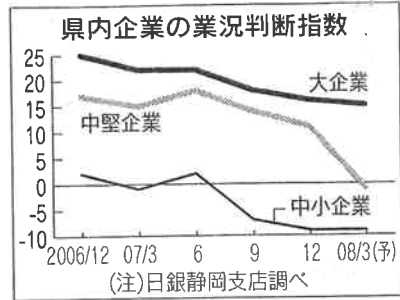
中国での製紙原料古紙の需要急増はかつてない古紙高を引き起こし、県内家庭紙メーカーを直撃した。カツオ、マグロが健康志向を背景とした世界的な需要増で高騰、水産加工会社を苦境に立たせた。内需を取り込み安定的に成長してきた有力企業もグローバル化という構造変化にほんろつされ続けた。

国内、県内の市場は人口減でこれから確実に縮んでいく。十月一日現在で三百七十九万六千人の県内人口は国立社会保障・人口問題研究所の推計では二〇一〇年に三百七

スコープ

十七万一千人に減少。二〇三五年には今年十月一日時点に比べ一四・六%少ない三百二十四万二千二人になる。止まらないグローバル化と「縮む市場」のダブルパンチ。

グローバル化と向き合え



日銀静岡支店の企業短期経済観測調査(短観)では十二月に中小企業(資本金二千万円以上一億円未満)の業況判断指数(DI)のマイナス幅が拡大。中堅企業(一億円以上

十億円未満)も来年三月予測でマイナスに転じるが、この先、県内企業の経営環境はますます厳しくなりそうだ。「国内でパイが増えないなら海外で事業を伸ばすしかない

い」と自動化設備メーカー、三明機工(静岡市)の久保田和雄社長。七年前に参入した液晶パネル用ガラス基板の搬送装置は顧客開拓努力が実り台湾でも有力メーカーになった。自動車エンジン部品の製造設備も中国、韓国や北米で拡大中だ。

十一月十二月に海外へ送り込んだ設計、製造技術者らは自信になる(久保田社長)。こうした人材育成が世界で戦う基礎になる。

静岡県は東名高速道路、東海道新幹線という日本の二大動脈が走り、県内中堅・中小企業の多くは有利な立地条件を生かし国内、県内市場を主戦場に伸びてきた。

全社員の二割にあたる十八人。若手を積極的に海外へ出し、今年から自動車関連の製造設備分野では中国やタイで技術プレゼンテーションをさせている。「海外経験が社員

の自信になる(久保田社長)。こうした人材育成が世界で戦う基礎になる。

静岡県は東名高速道路、東海道新幹線という日本の二大動脈が走り、県内中堅・中小企業の多くは有利な立地条件を生かし国内、県内市場を主戦場に伸びてきた。



静岡 054-253-7199
浜松 053-452-8593

(静岡支局長 水野裕司)